

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1) お互いの存在を大切にし、ルールやマナーを育む | (自分と仲間を大切にできるチカラ) |
| 2) 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実 | (社会に通じる学力と自己実現のチカラ) |
| 3) 部活動、行事で個性と能力を磨きリーダーを育てる | (自分を生かし地域に貢献するチカラ) |
| 4) 「共生推進」を通じてインクルーシブな学びの場を創る | (ともに学び、友と育つ優しいチカラ) |

2 中期的目標

1. チーム学校（チーム信太）で生徒の学びの土台を作るー生徒指導、生徒支援の徹底で「安心して学べる」学校空間を作る
 - ア 全教職員で、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。
 - イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。指導を通じた生活状況の把握と生活習慣の改善を促す。
※年間延べ遅刻者数を2020年度には3,000未満を維持する。(平成29年度2,947回)
 - ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実、生徒情報の共有化、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
 - ・「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の作成と活用で生徒の継続的な支援を行う。特に個別支援の必要な生徒については、「合理的配慮」の観点から抽出や入り込みなどの具体的な方法を講じる。
 - ・スクールカウンセラーの引き続きの活用と、キャリアカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を学校して継続させ、地域諸機関、NPO等との連携で生徒支援のネットワークを作る。「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを実施。
 - エ 人権教育の充実でいじめがなく一人ひとりが大切にされる学校へ人権教育指導計画の作成。
 - ・いじめアンケートの実施、スクールカウンセラーを活用し、いじめの防止、早期発見の体制づくりに努めるとともに、いじめ等の様々な問題を見逃さずに組織的に迅速に対応し、継続的な支援を行う。
 - ・「誰もが心地よい学校行事」を継続させて、校内でお互いの個性や人権を認め合う学校文化を育成する。
2. 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実
 - (1) 「学ぶ力」プロジェクトの継続
 - ア ・新指導要領が謳う「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ」と、「困り感」を持つ生徒の学習支援のために、昨年度の「学ぶ力」プロジェクトチームの成果を継承し、さらなる授業実践に移す。その際、チームを①評価 ②手法 ③視覚化・構造化 ④ソーシャルスキルトレーニングの4つのグループに分け、研究を進め、「信太スタンダード」のさらなる共有化を図り、生徒の小さな成功体験を積み重ねることにより、「生徒の興味・関心」「生徒の知識・技能」を高める。
 - (2) キャリア教育の充実
 - ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。
 - イ 1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。
 - ウ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
 - エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。
※ 卒業時の進路決定者を2020年度に97%にする。(平成29年度96.4%)
※ 生徒・保護者の進路指導満足度を2020年度とともに85%以上にする。(平成29年度 生徒74.8%、保護者76.2%)
※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。
3. 開かれた学校づくりと部活動の充実
 - ア 運動部活動及び文化部活動の一層の充実を図るとともに、部活動加入率50%以上をめざす。
 - イ 学校説明会・体験入学などの充実を図るとともに、中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット、メールマガジン等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。
 - ウ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や中学校教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。生徒会、部活動を通して、地域の活動等に積極的に参加し、小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。
4. 共生推進教室の充実とインクルーシブな学校づくり

本年度で5年目となる「共生推進教室」について一層の充実を図り、インクルーシブな学校づくりを進める。

 - ア 信太高校全体の活動を通じて、障がいのあるなしにかかわらず、すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。
 - イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進め、共生の生徒の自立に向けた取組みを支援する。
5. チーム学校（チーム信太）で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり
 - ア 分掌や学年をこえた同僚性の確立、教職員相互の人権意識の確立、週1～2回の主任等ミドルリーダーによる、生徒指導・保護者対応等の管理職研修とOJTの実施。
 - イ 初任者、経験年数の少ない教職員を中心とする広報活動の実施。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
1. チーム学校（チーム信太）で生徒の学びの土台を作る ○全職員による毎朝の当番に加えて、1年学年団・生徒指導部を中心とした、生徒への声掛けを強化した結果、「先生の指導は納得」は、肯定的回答が8.1ポイント増加し、56.6%となった。(H29: 48.5%) ○いじめ緊急事象に対して、学年団を中心に被害生徒・加害生徒への継続的な指導を行った結果、「いじめや暴力のない学校づくり」は、肯定的回答が10.1ポイント増加し、71.8%、「いじめ等を見逃さず対応」	第1回(6/8) ○平成30年度の本校の取組みについて ・誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実させるために、学校の教育活動において、生きる力を身につけると生徒自身の自信となり、苦手を克服することができる。 ・開かれた学校づくりを推進するために、地域に顔を見せることが大切。小中高の教員が合同で研修などを企画し、研修後に懇親会を持つなど考えてみてはどうか。

<p>は、6.4ポイント増加し、63.3%（H29: 56.9%）と大幅に改善した。今後も組織的・継続的な指導を推進する。</p> <p>2 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実</p> <p>○本年度で3年目となる「学ぶ力プロジェクトチーム」で、その成果を公開授業、教職員研修で共有しながら授業改善をすすめた結果、学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」は、8.9ポイント増加し、60.3%となった。（H29: 51.4%）今後も、泉大津市教育委員会等と連携し、新学習指導要領の内容を踏まえた授業改善を全教員で共有化する。</p> <p>3. 開かれた学校づくりと部活動の充実</p> <p>○部活動加入率は、微増の42.9%。（H29:42.3%）1年生の部活動加入率は、初めて50%に達した。</p> <p>○「学校生活充実度」は、5.6ポイント増加し、69%。（H29:63.4%）今後、生徒が企画・運営し、成功体験を積み重ね、自信をつけるための学校行事の充実を図る。</p> <p>○「PTA活動は活発」78.5%（H29: 74.8）</p> <p>4 共生推進教室の充実</p> <p>○「障がいのある生徒と『ともに学ぶ教育』」については、生徒は、3.9ポイント増の66.6%、保護者は、8.9ポイント増の75.2%となり、『ともに学ぶ教育』が定着してきた。（H29・生徒62.7%、保護者66.3%）今後とも高等支援学校と連携しながら、授業・行事のあらゆる教育活動において『ともに学ぶ教育』を推進する。</p>	<p>第2回（11/9）</p> <p>○公開授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生からのキャリア教育は、2年生以降のコース選択や進路選択に繋がる。1分間スピーチはとても良い経験だ。 ・総合学習では、準備時間が短いにも関わらず、生徒に良い変化がみられる。しかし、振り返りの時間が短いので、発表者を小分けにして振り返りの時間を多くとるとよい。 <p>第3回（1/25）</p> <p>○平成30年度学校評価（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況は各学年で異なるが、今年度、生徒の状況が大きく改善している要因は、生徒と教員の双方の前向きな姿勢がうまくかみあったためではないか。 ・PTA活動について80%近くの肯定的評価があるのは、素晴らしい。 <p>○平成31年度学校経営計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす学校像」及び「中期的目標」は、新学習指導要領を踏まえ、「生徒は何ができるようになるか」という視点で大幅に改定し、承認された。 ・生徒の授業理解度を70%に上げるには、中間層の40%の生徒を引き上げることが重要。教員が生徒の興味・関心を惹きつけるような工夫をするための研修も必要ではないか。 ・学校教育自己診断では、経年変化を分析することも重要だが、ある学年が年次進行でどのように変化したかに重点を置くと生徒の伸びがよくわかるのではないか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 の チ ー ム 学 校 （ チ ー ム 信 太 ） で 生 徒</p>	<p>ア 全教職員で基本的な生活習慣の定着に取り組む。</p> <p>イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。</p> <p>ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実</p>	<p>ア スポーツ科学専門コースの生徒をはじめ、全校生徒の社会人基礎力の育成を本校の第一の特色とし、進路指導行事において生徒指導の目的を理解させたいと、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続する。 <p>イ 早朝登校、保護者との話し合いなどを取り入れた遅刻指導を推進する。</p> <p>ウ 「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援カードの活用、個別支援計画等を全教員で共有化する。 ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒の居場所づくりとスクールソーシャルワーカーの配置により、外部機関と連携しながら効果的な生徒支援を行う。 ・いじめアンケートと事後対応の流れを確立し、組織的な対応を強化する。 	<p>ア・全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」53%以上。（H29: 48.5%） <p>イ・年間延べ遅刻者数 3,000 回未満。（H29・2,947 回）</p> <p>ウ・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」70%以上。（H29: 69.7%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」63.0%以上（H29: 61.7%） ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」60.0%以上。（H29: 56.9%） 	<p>ア・全職員による早朝の服装頭髪指導を継続するとともに、毎朝の当番に加えて、1年学年団・生徒指導部を中心とした、生徒への声掛けを強化。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」56.6%。（H29: 48.5%）（◎） <p>イ・年間延べ遅刻者数 H30 年度末 2,506 回。（H29 年度末・2,947 回）（◎）</p> <p>ウ・1年次のクラス開きHR「障がい者理解」「LGBTの当事者による生徒対象講演会」等、3年間系統立てた人権教育計画を確立し、学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75.6%。（H29: 69.7%）（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめにつながる事象に対し、被害生徒ケア、加害生徒の指導に組織的、迅速に対応をした。 ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」71.8%。（H29: 61.7%）（◎） ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」63.3%。（H29: 56.9%）（◎）
<p>2 充 実 誰 に で も 分 か り や す い 学 び と キ ャ リ ア 教 育 の</p>	<p>(1)「学ぶ力」プロジェクト推進</p> <p>ア 「学ぶ力」プロジェクトチームによる「信太スタンダード」のさらなる共有化</p>	<p>ア 「信太スタンダード」のさらなる共有化を図り、「生徒の興味・関心」「生徒の知識・技能」を高める。その際、チームを①評価 ②手法 ③視覚化・構造化 ④ソーシャルスキルトレーニングの4つのグループに分け実践を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性を生かしたカリキュラムとするため、各授業において、生徒自身が毎時間振り返りを行うことで、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・泉大津市教育委員会と連携しながら、参加教員は、11月の公開授業週間等でテーマ別の研究授業を実施。 ・1月の教職員研修で「学ぶ力」プロジェクトチームの実践報告をし、教職員研修で全教員に共有化する。 	<p>ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」55%以上。（H29: 51.4%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」76%以上。（H29: 74.5%） ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.07以上。（H29: 3.04） ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.10以上。（H29: 3.07） 	<p>ア・泉大津市教育委員会、近隣中学校、専門学校等と連携し、「学ぶ力PT」を中心とした授業改善を進め、公開授業、実践報告会を実施。今後も、外部の教育力を活用した授業改善を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」60.3%。（H29: 51.4%）（◎） ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」78.8%。（H29: 74.5%）（◎） ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」第1回3.16 第2回3.09。（H29: 第2回3.04）（◎） ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」第1回3.19 第2回3.11。（H29: 第2回3.07）（◎）

府立信太高等学校

2 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実	(2) キャリア教育の推進	<p>ア 3年間を見通した系統的・組織的なキャリア教育の定着を図る。 ・生徒一人ひとりの進路目標を確立させるために、1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に実施する。 ・「総合的な学習の時間」の1年の授業内容を外部教育産業と連携し、 ①基礎学力の定着、②自己理解を深める③情報処理能力の育成を中心に全面改訂する。</p> <p>イ 漢字検定や毎日パソコンコンクールの全員受験を引き続き継続する。</p> <p>ウ スポーツ科学専門コースの授業の充実を図り、リーダーを育成する。</p>	<p>ア・卒業時の進路決定率97%以上。(H29・96.4%、H28・94%、H27・91%) ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに78%以上。(H29・生徒74.8%、保護者76.2%) ・就職内定率は、100%の継続 ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」48%以上。(H29: 45.5%)</p> <p>イ・漢字検定合格率60%以上を維持。(H29: 60.3%)</p> <p>ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」3.70(H29・3.70)、「知識・技能」3.70(H29・3.70)以上を維持。</p>	<p>ア・卒業時の進路決定率95.8%。(H29・96.4%) (△) ・生徒の進路指導満足度81.5%。(H29・生徒74.8%) (◎) 保護者の進路指導満足度76.6%(H29・保護者76.2%) (△) ・就職内定率は、100%継続 (○) ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」53.0%。(H29: 45.5%) (◎)</p> <p>イ・漢字検定合格率50.3%。(H29: 60.3%) (△) ・2級合格者1名、準2級合格者7名、3級合格者74名、4級合格者69名</p> <p>ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」第1回3.70 第2回3.40(H29・第2回3.70)、「知識・技能」第1回3.73 第2回3.50(H29・第2回3.70)。 (△)</p>
3. 開かれた学校づくりと部活動の充実	<p>ア 運動部及び文化部と学校行事の活動の一層の充実を図る。</p> <p>イ 学校説明会・体験入学などの充実を図る。</p> <p>ウ 生徒会、部活動を通して、地域の活動に参加。</p>	<p>ア 部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。</p> <p>イ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット等の全面改訂及び部活動ブログの開設により、積極的に情報を発信する。</p> <p>ウ 地元中学校等の異校種連携による部活動交流会、中学生対象の講習会や教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の部活動の拠点校となる。小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p>	<p>ア・部活動加入率44%以上。(H29・42.3%) ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」66%以上(H29・63.4%)</p> <p>イ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度98%以上を維持。(H29・98%) ・中学校訪問100校以上。(H29: 延べ126校)</p> <p>ウ・地域行事参加年間15回以上を維持。(H29・15回) ・地域清掃活動年間250回以上を維持。(H29・250回) ・中学生対象部活動行事年間12回以上を維持。(H29・12回)</p>	<p>ア・部活動加入率42.9%。(H29・42.3%) (△) ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」69%。(H29・63.4%) (◎)</p> <p>イ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度100%。(H29・98%) (◎) ・中学校訪問は、生徒の情報交換を主な目的とし、1・3年生の在籍校全校115校。(H29: 延べ126校) (○)</p> <p>ウ・地域行事参加(教員・PTAによる夜回り、部活動生徒による、介護施設訪問演奏等)年間15回。(H29・15回) (○) ・スポーツ科学専門コース生徒51名による、泉北高等支援学校交流を実施、次年度以降も継続。(◎) ・北助松地域清掃活動300人参加。校舎周辺清掃年間250回(H29・250回) (○) ・中学生対象部活動行事(指導者講習会、中高合同練習 年間24回。(H29・12回) (◎) ・泉大津市立東陽中学校出前授業5クラス (◎)</p>
4 共生推進教室の充実	<p>ア すべての生徒が「ともに学びともに育つ」教育を進める。</p> <p>イ 共生の生徒の自立、社会参加に向けた取組みを支援する。</p>	<p>ア 1年のクラス開きで、共生推進教室の生徒と共に「障がい理解HR」を実施する。</p> <p>イ 3年間の人権HR計画を全面改訂し、障がい理解HRを組み込むとともに、教材を全教員で共有化する。 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。SSTを取り入れた自立活動の授業を行い、公開授業を実施する。</p> <p>ウ 学校説明会等において、生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ教育』」生徒、保護者ともに66%以上。(H29・生徒62.7%、保護者66.3%)</p> <p>イ・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」70%以上。(H29: 69.7%) (再掲) ・府立高校や近隣の中学校と連携し、「自立活動」公開授業を年2回実施。</p> <p>ウ・共生推進教室志願者例年並み。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ教育』」生徒66.6%、保護者75.4%。(H29・生徒62.7%、保護者66.3%) (◎)</p> <p>イ・3年間を見通した人権教育を策定し、人権講演会と振り返りHRを実施。 学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75.6%。(H29: 69.7%) (再掲) (◎) ・中学生体験授業等で「自立活動」公開授業を年2回実施。今後も教員全体で「ともに学ぶ教育」を推進する。(○)</p> <p>ウ・共生推進教室志願者例年並み。中学校訪問を実施。(○)</p>

府立信太高等学校

<p>の 5・チーム学校の 職場づくり</p>	<p>ア チーム学校（チーム信太）で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり イ 経験年数の短い教員の育成 ウ 教職員の働き方改革の推進</p>	<p>ア 職員会議等を使ってふだんから教職員相互の人権意識の確立を進める。 イ 初任者、経験年数の短い教職員を中心とする広報活動を実施する。 初任者・経験年数の短い教職員に対しては、主任等ミドルリーダーによる、生徒指導・保護者対応等のOJTにより実施する。 ウ 職員会議を原則として月1回に削減し、資料番号の統一と配付方法の見直しを行うとともに、委員会の統合、教材の共有化により、教職員の働き方改革を推進する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。 (H29:73.6%) イ・管理職・首席・部主事による初任者研修、OJTによる実践を週1回実施。 ウ・教職員一人当たりの年休年間取得日数の平均 15 日以上 (H28 :14.0 日 H29:14.5 日)</p>	<p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」74.6%。(H29:73.6%) (△) ・委員会の統合、構成員の見直し、過去のレジメの共有化により、ミドルリーダーによる自主的な学校運営が定着。(◎) イ・部主事等による、OJTによる研修を週1回以上実施。(○) ウ・教職員一人当たりの年休年間取得日数の平均 16 日。(H28 :14.0 日 H29:14.5 日) ・職員会議を原則として月1回に削減し、資料番号の統一と配付方法の見直し、委員会の統合、構成員の見直し、教材の共有化が進み、全体の総合健康リスクが改善 H30:96 (H29:99) (◎)</p>
-----------------------------	--	---	---	---